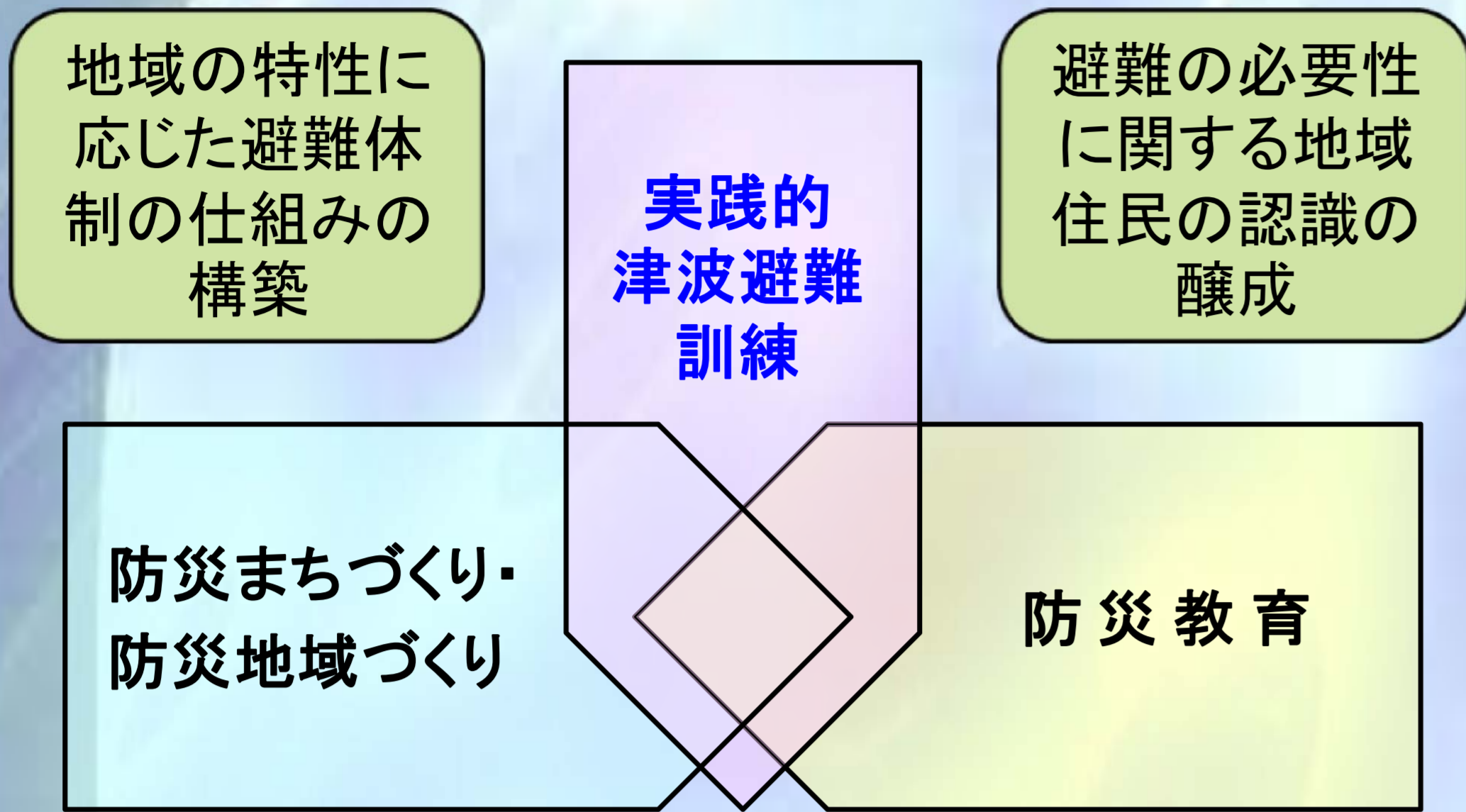


地域の独自性を考慮した防災機能の構築に関する研究

照本 清峰 (元:和歌山大学防災研究教育センター 現:徳島大学)

問題意識



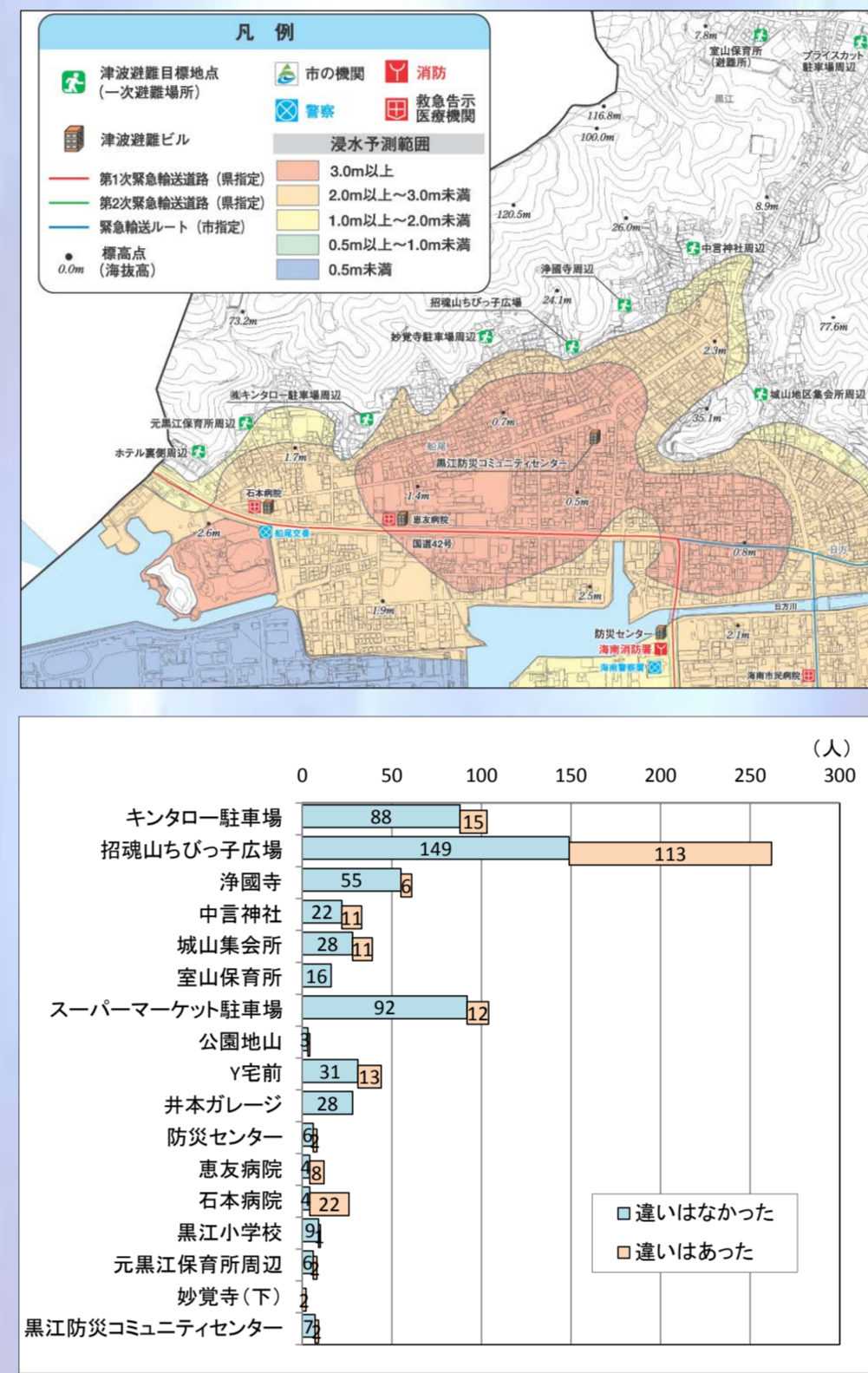
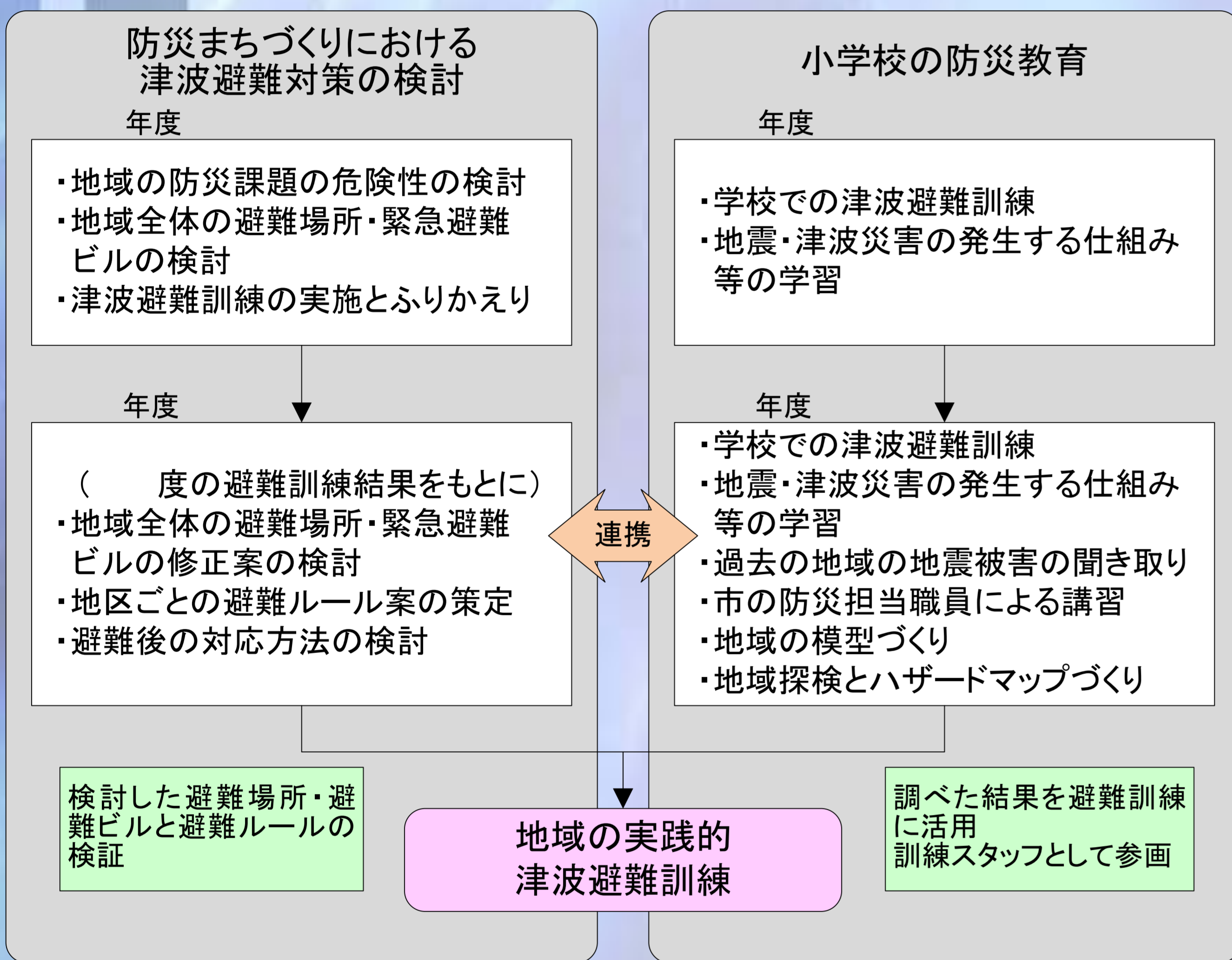
研究の目的

来たる東海・東南海・南海地震に備えるために、地域に求められる防災機能のあり方を示すとともに、防災機能を地域に組み込むための方策を検討すること

防災学習の方法	内容	効果
知識の伝達による学習	自然現象や災害の発生する仕組みの理解、地域の災害史の勉強等	防災・減災に関する必要な知識の習得
調べること・つくること・体験することを通じた学習	地域探検による危険箇所や防災資源の探索、地域の模型づくり等	上記に加えて、問題意識の共有、防災への関心の醸成
実践的な取組みの中で役割を担うことを通じた学習	調べた成果・防災の取組みの地域への伝達、スタッフとしての防災訓練への関与等	上記に加えて、地域や社会への責任感、主体性の醸成

海南市の取り組み

地域住民と協働した津波避難対策、小学校と連携した防災教育を検討するとともに、地域と学校が連携した津波避難訓練を実施することにより、連携モデルを構築した。また、訓練の分析結果を踏まえた津波避難に関する地域の課題を示した。



地域に対する連携効果:

- 子どもたちが主体的に関わることで住民も関心をもって訓練に参加する
- 地震災害や津波避難に関する地域の課題、対策の課題を認識してもらう
- 訓練結果から津波避難対策や防災対策の検討につなげられる

子どもたちに対する連携効果:

- 単なる知識教育ではなく活動を通じて津波対策について学ぶことができる
- 地域との関わりの中から関心を持ち、地域の課題を認識してもらえる
- 子どもたちが訓練のスタッフになるという体験を通じて、減災行動についての主体性と責任感がうまれる

みなべ町の取り組み

中山間地域の孤立対策の検討を行うとともに、津波浸水危険区域における避難ルールを検討した。中山間地域の対策では、台風 号災害の経験を踏まえ、小学校と地域の協働による取り組み体制を構築した。津波浸水危険区域では、ワークショップと訓練の結果を踏まえ、車両避難の可能性と課題、時間帯に応じた津波避難の課題を検討した。



白浜町の取り組み

地震発生後における観光客の避難誘導体制を検討することに着目して検討した。検討においては地域の関係者と協働して取り組むとともに、海水浴シーズンにおける津波避難訓練も実施し、避難誘導体制、情報伝達における課題を検討した。



◆目標
南海地震などの大津波を引き起こす巨大地震が発生したときに、白浜に来てもらっている観光客、従業員、及び地域住民全員の生命を守るための体制を整備すること

津波避難訓練実施日時
年月日(火) ~
主会場: 白良浜海水浴場及びその周辺地区
訓練の想定参加者: 観光客、地域住民

訓練に基づいて明示された検討項目

- ライフセーバー等のスタッフにどこまで対応してもらおうべきか?
- 同調圧力の危険性
- 津波警報(揺れがない場合の対応と脅威)
- 情報伝達の方法と伝達内容をよりわかりやすく
- 避難を促すための誘導体制

訓練結果の例

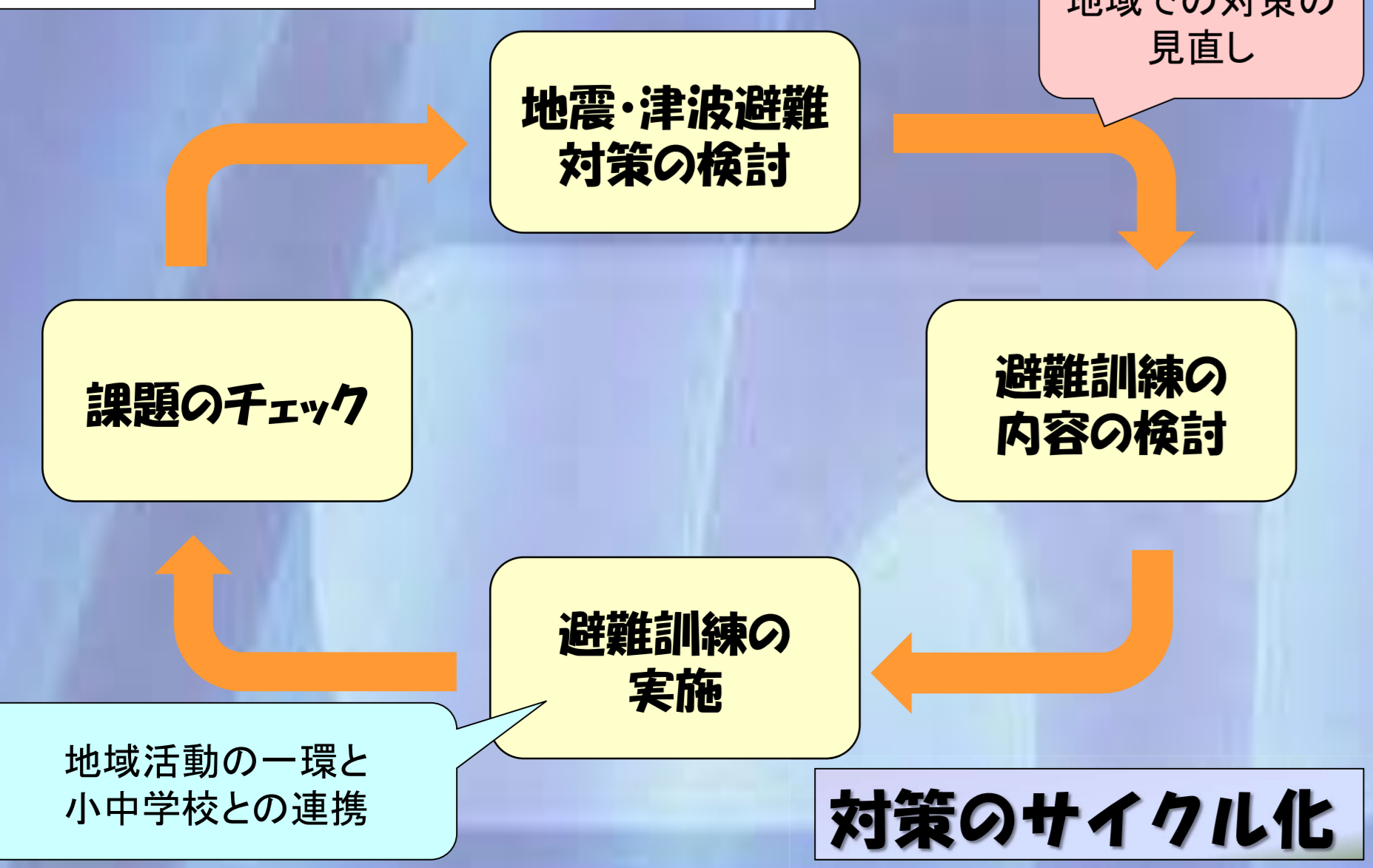
	分以内	~ 分	~ 分	~ 分	~ 分	分以上
地区						
地区						
地区						
地区						

	分以内	~ 分	~ 分	~ 分	~ 分	分以上
徒歩						
自転車						
バイク						
自動車						

実践的津波避難訓練に基づく課題の導出

- 車両での避難は時間短縮につながるが、全てに容認すると渋滞する可能性が高い
- 徒歩での避難のみでは、津波来襲までに避難を完了できない人たちがいる
- 自転車、バイクなどの避難は有効性がみられる

目指すべき状況



各取り組みを通じて、検討方法、避難訓練、防災訓練等の実施モデルは確立されつつある。他地域においても、地域性を考慮した上で、協働して取りこんでいくことができる。

■連絡先:
和歌山大学防災研究教育センター
Tel:073-457-7558
E-mail:terumoto@center.wakayama-u.ac.jp